

### **禁教令の撤廃とカトリックの復興**

信徒発見は、その後の歴史に大きな影響を及ぼした。当時日本ではまだ禁教が続いていたため、この出来事は政府の信徒に対する弾圧的な姿勢を強化させ、1868年の明治維新後でさえ迫害は続いた。信仰を告白した浦上村のキリシタンに加え、五島列島の集落が摘発の対象となった。最終的に、浦上村のキリシタン累計約3,400人が西日本の20藩に分かれて配流され、神道への改宗を強制された。

しかし、1873年、信徒への弾圧に対する西洋諸国の強い抗議により、明治政府はついにキリスト教禁止の高札を撤廃した。潜伏していた信徒たちは日の下に出られるようになり、改めて宣教師から洗礼を受けてカトリックに復帰した。宣教師たちは潜伏キリシタンの指導者たちに適切なキリスト教の教育を授け、彼らの住まいを教会堂の代わりに祈りの場とすることができた。信徒の協力のもと、各地の集落に素朴で多様なデザインの教会堂が次々と建設された。

(挿画：庄司好孝)